

EU一般データ保護規則 (GDPR)

映像監視への影響



目次

はじめに	3
1. GDPRとは何か?	4
2. GDPRは映像監視にどのような影響をもたらすのか?	5
2.1 GDPRコンプライアンスへの取り組み	5
3. 終わりに	7

EU一般データ保護規則(GDPR)は、2018年5月25日に施行されます。この規制は、個人データをどのように収集、処理および転送されるべきか、個人での管理を強化することを目的としており、この施行により、インストール業者、システム統合関連業者、映像監視機器の使用者が影響を受けます。

GDPRは、事業活動における役割および責任を明確にするため、また収集された個人情報について、どのように取り扱われるか個人で行う管理を強化するための体制を定めています。

この規制は、EUを拠点とする組織、また拠点地に関わりなくEU域内に居住する個人のデータの処理および保存に適用されます。

アクシスは、いち組織として常に個人データ保護規制を重んじ、厳守して参りました。このため、アクシスはGDPR導入への対応に全力を尽くし、お客様の規制遵守への対策の負担を軽減するため、アクシス自身がこの規制を完全に順守することに努め、お客様をサポートして参ります。

アクシスは、GDPRコンプライアンスのための戦略モデルを作成いたしました。この戦略には、アクシスが実施するデータ処理に関する活動で安全が確保されているか継続的な検査と評価を行うことが含まれています。

多くの組織がGDPRに関して疑問を抱えています。なぜ、新しい規制が必要なのか？ この規制には何が含まれているのか？ 映像監視にどのような影響を与えるのか？ この規制を遵守するために何を行うべきか？

このホワイトペーパーは、GDPRコンプライアンスの影響を調査し、映像監視分野の関係者にGDPRにおける課題および機会の把握を促すことを目的に作成されています。



Simon Ottosson
顧問弁護士
Axis Communications



Edwin Roobol
中央ヨーロッパ地域担当ディレクター
Axis Communications

1. GDPRとは何か?

一般データ保護規則(GDPR)は、組織が管理するあらゆる形式の個人データのルールを定める一連の規則です。GDPRは、各個人に個人データの所有権を与え、各組織に対してデータの処理および保存のあらゆる段階において責任を定めます。GDPRは、各個人に一連の権利を保証し、各組織に個人データの処理に関する義務を与えることでこれらを実現します。

データとは何か?

GDPRを理解するうえで重要となるのが、法的に定義された個人データを明確にすることです。法令では、個人データとは識別された、または識別され得る自然人に関するすべての情報と定義されています。特定可能な自然人とは、特に名前、識別番号、位置情報、オンラインIDまたは当該自然人の身体的、生理的、遺伝的、精神的、経済的、文化的もしくは社会的特定に固有な1つ以上の要素を参照することにより、直接的または間接的に特定できる者をいいます。

GDPRの地理的適用範囲

GDPRは、EU域内の管理者又は処理者の事業所の活動に関連してなされる個人データの処理に適用されます。EU域内に拠点のない管理者または処理者によるEU在住のデータ主体の個人データの処理に適用され、EU在住のデータ主体に対する商品・サービスの提供に関する処理、またはデータ主体の行動の監視に関する処理を対象としています。このため、EU一般データ保護規則は世界的に影響を及ぼすことは明らかです。

各組織の責任

個人データを処理または保存するあらゆる組織は、GDPRの要件に適合してこれらを実施していることを保証する責任を負います。

GDPRは、組織を2つの役割に分類しています: データ管理者とデータ処理者で各役割においてそれぞれ責任を負います:

データ管理者: データ管理者とは、個人データの処理の目的および手段を決定します。例えば、監視目的でCCTVシステムを使用する店のオーナーです。

データ処理者: 管理者を代理して個人データの処理を行う人のことです。処理者は、店主など監視目的でCCTVシステムを所有する人から指示された、CCTVシステムから収集したデータの管理を行う法人である場合があります。

プライバシー・バイ・デザインおよびプライバシー・バイ・デフォルト

GDPRでは、管理者が個人データの処理を行う際に、GDPRを確実に遵守するための適切な技術的および組織的措置を実施することが求められています。GDPRではこれをプライバシー・バイ・デザインと呼んでします。ファームウェアを含むカメラに関しては、プライバシー・バイ・デザインの関連する例としてユーザーがデジタル形式で画像撮影を行える範囲を特定の領域に制限し、この範囲以外での画像の撮影を不可能にする機能があります。

さらに管理者は、当該の個人データの処理が初期設定においてGDPRの遵守とパーソナルデータの保護を図るように技術的および組織的措置を講じる義務を負い、GDPRではこれをプライバシー・バイ・デフォルトと呼んでいます。ファームウェアを含むカメラに関しては、プライバシー・バイ・デフォルト関連の例として、上記の例に従って正確に画像撮影を行うようにユーザーを自動的に誘導する機能があります。

個人の権利

GDPRの主要な目的は、個人の保護を強化し、個人データの管理のための権限を定めることです。個人データを処理または保存する人は、これらのデータのプライバシーを保護する責任を負い、この規制で特定の要件が定められています。

さらにこの規制は、個人データの収集が開始される際に、収集される時点およびどのように使用されるかを個人が知る権利を与えています。映像監視においては、例えば映像監視が行われる領域内および周辺に適切な標識を掲示することです。

2. GDPRは映像監視にどのような影響をもたらすのか？

GDPRに関する議論は、スプレッドシートやデータベースに保存された名簿やEメールアドレスといった従来のデータの安全な保存と処理を中心に行われました。動画については重要視されていませんでしたが、企業が注意しなければならない領域がいくつかあります。

監視映像に個人データが含まれる場合は、GDPRの規定が適用されます。

GDPRがカメラ製品やソリューションなどの監視機器の使用に与える影響

アクシスが販売する製品およびソリューションについては、製品またはソリューションのユーザーが主に管理者として、GDPRに準拠して個人データの処理が行われていることを保証する責任を負います。すなわち製品およびソリューションについては、GDPRコンプライアンスまたは規制の違反は顧客がどのように製品およびソリューションを使用するかによって大きく異なります。

GDPRが与える特定のホストサービスの使用への影響

サービスにおいては、GDPRコンプライアンスはある程度どのようにサービスが提供されるかにより左右され、これはアクシスが責任を負います。しかしながらGDPRコンプライアンスまたは規制の違反は、主にクライアントがどのようにサービスを使用するかに依存します。GDPRに対してどのような義務が発生し、誰がこれらの義務を負うかは用途別に調査する必要があります。

ホストサービスであるAXIS Guardianを例に下記に説明を記載します。主にGDPRがどのように適用され、誰がどのような責任を負うのか：

- > **アラームサービス提供者のクライアント:** ユーザーのカメラ監視システムで撮影され、AXIS Guardianにアップロードされた映像に含まれる個人データのデータ管理者。
- > **アラームサービス提供者:** ユーザーによりAXIS Guardianにアップロードされた個人データのユーザーの代理のデータ処理者(従業員情報および撮影した映像の使用者など)。
- > **アクシス:** アラームサービス提供者によりAXIS Guardianにアップロードされた個人データ(アラームサービス提供者の従業員情報など)アラームサービス提供者の代理のデータ処理者、およびアラームサービス提供者のクライアントによってAXIS Guardianにアップロードされた個人データ(撮影された映像)のアラームサービス提供者の代理の個人データ副処理者。
- > **Amazon ウェブサービス:** アラームサービス提供者およびそのクライアント(ユーザー)によりAXIS Guardianにアップロードされた個人データのアクシスの代理のデータ副処理者。

2.1 GDPRコンプライアンスへの取り組み

GDPRは、組織において映像データを含む個人データの今後の取扱い方法を定める規制です。

個人データを処理する各組織には、GDPR遵守を促進する責務を担う人物を最低1名指名する必要があります(指名する作業時間は組織の規模、収集および処理される個人データの容量によって異なります)。さらにGDPRでは、一定の条件に当てはまる組織でこれらの課題を遂行するためにデータ保護担当者(DPO)の指名を義務付けています。

さらに管理プロセスも変更されます。GDPRでは、組織はデータ処理活動を詳細かつ正確に記録する必要があります。以下のような記録が必要な詳細範囲がありますが、ただし必ずしもこれらに限定されるものではありません：

- > 処理される個人データがどのカテゴリーに分類される個人であるか(例：顧客、従業員、来店客など)
- > 個人データが何の目的に使用されるか
- > 個人データが他の企業および/またはEU地域外へ転送されるか
- > 個人データが保存される期間
- > 個別のデータ処理活動に対してGDPR遵守を確保するための組織による対策

保存される監視映像については、これらすべてが重要となります。

組織は、なぜビデオカメラが特定の場所に配置され、何を撮影し、何の目的で行うのかを説明する義務を負います。映像監視においては、映像監視が行われる領域内および周辺にこうした情報を提供するため、適切な標識を掲示します。

また、公共の場所にカメラを設置する場合は、データ管理者はデータ保護影響評価(Data Protection Impact Assessment: DPIA)を実施する義務を負う場合があります。DPIAでの必須実施事項(DPIAの正確な内容については個別に調査する必要があります)：

- > 予定される処理操作の系統的な説明および処理の目的
- > 目的に関連する処理操作の必要性および比例性の評価
- > データ主体の権利および自由に対するリスクの評価
- > リスク対応のために想定する措置。これには、個人データの保護を保障し、データ主体およびその他の関係者の権利と正当な利益を考慮に入れた上、本規則の遵守を証明するための保護措置、安全対策および仕組みを含む。

この新規定の重要な特徴のひとつに、監視される個人がデータが収集され、どのように使用されるかを十分に理解させることにあります。

この規制は、暗号化に関する明確な基本事項を定義し、どのようにデータを保護する必要があるかを定めています。さらにデータが映像形式である場合でも、この要件は同様に適用されます。

このため、個人データの保存および不正アクセスを防御するための堅牢な対策に関して、映像を保管する企業は明確な責任を負います。すなわち、誰がカメラおよび記録したデータにアクセスする権限があるかを書面で規定する必要があることを示しています。

さらに組織は、個人が個人データへのアクセスまたは削除を求める権利を主張した場合の手順を整えておく必要があります。またGDPRが定める要件に従い、指定された保管期間内で求められる場合があります。このような要求が行われた場合、要求した個人はこれらのデータを見つけるため、画像が撮影されたおおよその期間、場所など、適切な情報が提供されることを期待しています。

企業は、保存した個人データへの不正アクセスを防御するための堅牢な対策を使用する必要があります。各企業が用いる方策は、課題に応じて異なりますが、企業は必ず堅牢な安全管理を行い、最新技術のサイバーセキュリティを取り入れ、信頼のおけるハードウェア、ソフトウェア、念入りなアフターケアを提供する提携パートナーとの協力を確保する必要があります。

3. 終わりに

いずれにしても、監視機器、監視ソリューション、監視サービスのユーザーがGDPRコンプライアンスおよびユーザーが処理する個人データの権利を保護する責任を負います。ほとんど、またはまったく対策を講じていない組織は、措置を講じる必要があります。課題に真剣に取り組み、規定に従って責任を全うしてきた企業においては、懸念する必要はありません。

このため、監視機器、監視ソリューション、監視サービスのユーザーは、個人データ保護を尊重し安全を確保するとともに、個人データを保護するサプライヤーおよび販売業者と協力することが重要です。さらに監視機器、監視ソリューション、監視サービスのユーザーは、GDPRの遵守を確保するため、サプライヤーおよび販売業者と信頼関係が築かれていなければなりません。

追加ソース:

[GDPRの詳細情報](#)

[EUデータ保護規制管理監督者ウェブサイト](#)

[中小企業向けデータ保護ガイダンスウェブサイト](#)

Axis Communicationsの展望

アクシスは、ネットワークソリューションを構築し、新しいビジネスモデルを追求してセキュリティの強化を図り、よりスマートで安全な環境を実現します。ネットワークビデオ分野において産業をリードするアクシスは、映像監視、アクセスコントロール、オーディオシステム、ビデオ分析向けの製品およびサービスを提供しています。

アクシスは、50か国以上に2800名以上の従業員を擁し、全世界のパートナーと提携してお客様にソリューションを提供いたしております。1984年に設立されたAxisはスウェーデンに本社を置き、NASDAQ Stockholmに株式上場しています(ティッカーシンボルAXIS)。

アクシスより詳しい情報はwww.axis.comをご覧ください。